

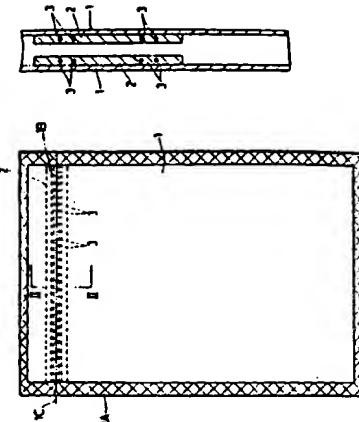
JA 0205559
AUG 1990

(54) PACKING BAG

(11) 2-205559 (A) (43) 15.8.1990 (19) JP
(21) Appl. No. 64-15831 (22) 24.1.1989
(71) IDEMITSU PETROCHEM CO LTD (72) KAZUFUMI MATSUI
(51) Int. Cl^s. B65D33/00, B65D33/25

PURPOSE: To straightly and easily unseal and produce a packing bag without restriction of materials for a base film to be used, by providing a fiber-state guide member along a cut-off part at the both sides thereof.

CONSTITUTION: For a packing bag, a seal part 1A is formed at the edges of the upper and lower parts and right and left parts of two sheets of rectangular base film 1. In the inside of these base film 1, tapes 2 are heat-sealed along a linear cut-off part 1B respectively. At the one end of the cut-off part 1B of the base film 1, an unseal notch 1C is formed and a fiber-state guide member 3 is provided in the tape 2 along the cut-off part 1B. A plurality of guide members are provided between the cut-off part 1B, that is, at least each one, total two, is provided at the upper and lower parts of the cut-off parts 1B. The packing part can be easily and straightly opened and moreover the cut-off face of the packing bag can be cleaned without use of blades like scissors on unsealing the packing bag. As special materials like a single-directional extensible film is not necessarily required for the materials of the base film 1, various materials can be used as the base film 1.



⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 平2-205559

③ Int. Cl.⁵
B 65 D 33/00
33/25

識別記号 庁内整理番号
C 6833-3E
A 6833-3E

④ 公開 平成2年(1990)8月15日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全5頁)

⑤ 発明の名称 包装袋

⑥ 特 願 平1-15831
⑦ 出 願 平1(1989)1月24日

⑧ 発明者 松井 一文 兵庫県姫路市白浜町甲841番地の3 出光石油化学株式会社内

⑨ 出願人 出光石油化学株式会社 東京都千代田区丸の内3丁目1番1号

⑩ 代理人 弁理士 木下 実三 外2名

明細書

1. 発明の名称

包装袋

2. 特許請求の範囲

(1) 基材フィルムにより内部に内容物を密封して形成され、かつ、一端縫から他端縫まで延びる線状の切取部を有する包装袋であって、前記切取部に沿って複雑状のガイド部材がこの切取部の両側に設けられたことを特徴とする包装袋。

(2) 特許請求の範囲第1項において、前記基材フィルムのガイド部材より内容物側には互いに咬合可能な咬合具の咬合部が設けられていることを特徴とする包装袋。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、食品、医薬品、雑貨用品等の包装に用いられる包装袋に係り、特に、包装袋の開封構造に関するものである。

(従来の技術)

食品等の内容物が密封された包装袋では、直線状に容易に開封されることが望まれている。

従来より、包装袋を直線状に開封するために、包装袋を構成する基材フィルムとして一軸延伸フィルム等一方に裂けやすいフィルムを用いるものの(従来例Ⅰ)、包装袋を製造した後、この包装袋に開封手段を二次的に施すもの(従来例Ⅱ)、さらに、基材フィルムの切取部にテープを溶着固定し、このテープの長手方向に沿って切欠を形成するもの(従来例Ⅲ)が知られている。

(発明が解決しようとする課題)

ところが、一方に裂けやすいフィルムを用いる従来例Ⅰでは、使用できる基材フィルムの材質が制限されるという問題点がある。また、開封手段を二次加工的に付与する従来例Ⅱでは、後工程が煩雑であり、また、包装袋の製作のためのコストがかかるという問題点がある。さらに、テープ

に切欠を設ける従来例Ⅲでは、輸送中等において包装袋に外力が加わって誤って開封されないようするため、切欠の深さをあまり深くできないことから、開封の際、必ずしも切欠に沿って一方向に開口できないという問題点がある。

ここに、本発明の目的は、直線的に容易に開封でき、使用される基材フィルムの材質が制限されず、しかも、製造の容易な包装袋を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

本発明の包装袋は、基材フィルムにより内部に内容物を密封して形成され、かつ、一端縁から他端縁まで延びる線状の切取部を有する包装袋であって、前記切取部に沿って織維状のガイド部材がこの切取部の両側に設けられたことを特徴とする。この戦錐状のガイド部材は、切取部を挟んで少なくとも1本ずつあればよい。また、ガイド部材の材質として、ナイロン(ポリアミド)、ポリエチレン、アラミド織維等を例示できる。この中でも

特にアラミド織維が融点が高く、高強度であるという点で優れている。

ここで、包装袋としては、チャック付き包装袋、つまり前記基材フィルムに互いに咬合可能な咬合具が設けられたものでもよく、この場合、前記ガイド部材より内容物側に咬合具の咬合部を設ける。この咬合具の材質として、ポリエチレン、ポリプロピレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体、アイオノマー等を例示できる。

(作用)

このような構成の本発明では、基材フィルムの切取部に沿って直接に、あるいは、この切取部にシールされるテープに押出成形等によって織維状のガイド部材を設ける。また、チャック付き包装袋の場合には、前記基材フィルムまたはテープに前記ガイド部材を設ける他、咬合具の咬合部を支持する基部に前記ガイド部材を設けてもよい。

これらの包装袋では、切取部の一端から包装袋を引き裂くと、切取部の両側に設けられたガイド

部材に沿って基材フィルムが切り欠かれて包装袋は一方向に開口され、包装袋のカット面はきれいになる。従って、チャック付き包装袋では、包装袋が直線状に開口されるので、咬合具開閉の際、咬合具を指で支持する部分が少なくなるという不都合を回避できる。

(実施例)

以下に本発明の実施例を図面に基づいて説明する。ここで、各実施例中、同一または同様構成部分は同一符号を付し、説明を省略もしくは簡略にする。

第1実施例

第1図及び第2図には、本発明の第1実施例が示されている。これらの図において、包装袋は、2枚の長方形基材フィルム1の上下左右の側縁にシール部1Aが形成され、これらの基材フィルム1の内側には線状の切取部1Bに沿ってそれぞれテープ2が接着固定されている。

ここで、基材フィルム1の材質としては、単層

フィルム、多層フィルム、ラミネートフィルム等、特に限定されるものではなく、多層ラミネートフィルムとしては、ガスバリヤー性を有するエチレン-ビニルアルコール共重合体(EVA)、ポリ塩化ビニリデン(PVDC)、ポリアクリロニトリル、ナイロン(NY)、あるいはアルミニウム(AI)等の金属と、他のフィルムとの複合フィルム等が用いられる。さらに、紙、不織布等の他の材料からなる多層材料とすることもできる。これら多層フィルム、多層材料は、包装される内容物等を考慮して各種材料を3種以上の多層としたものであってもよい。この基材フィルム1のより具体的な例としては、ONY/LDPE、PET/LDPE、PET/AI/LDPE、ONY/LLDPE、PET/LLDPE、PET/AI/LLDPE、ONY/EVA、PET/EVA、PET/AI/EVA等である。ここにおいて、ONYは二軸延伸ナイロン、PETはポリエチレンテレフタレート、LDPEは低密度ポリエチレン、LLDPEは直鎖状低密度ポリエチレンである。

また、前記テープ2の材質としては、ポリエチ

レン、ポリプロピレン等の種々のものが用いられる。

前記基材フィルム1の切取部1Bの一端には開封用ノッチ1Cが形成されるとともに、切取部1Bに沿って織維状のガイド部材3が前記テープ2内に設けられている。このガイド部材3は前記切取部1Bを挟んで複数設けられ、その数は切取部1Bの上下に少なくとも1本ずつ計2本あればよく、第1図及び第2図のように4本あるもの、あるいは3本、5本以上あるものでもよい。

ここで、ガイド部材3の材質としては、前記テープ2の溶ける温度で溶解、変形、変質せず、基材フィルム1より引張強度が強いことが必要であり、主にナイロン、ポリエステル、アラミド等の織維等が用いられる。この中でも特にアラミド織維が融点が高く、高強度であるという点で優れている。

このように構成される包装袋を製造するには、まず、第3図及び第4図に示される押出装置によりガイド部材3が設けられたテープ2を製造する。

即ち、押出機10のスクリュー11により低密度ポリエチレン等の樹脂を金型12内へ送り、この金型12内でこの樹脂を帶状に押し出した後冷却してテープ2を成形する。一方、前記金型12内に先端が押通された筒状部材13内にアラミド織維等からなるガイド部材3を押通し、このガイド部材3を前記テープ2内に設ける。

このように製造されたテープ2を所定寸法にカットし、このテープ2を基材フィルム1の切取部1Bにヒートシールする。テープ2が接着された基材フィルム1を重ね合わせ、図示しない内容物を収納するとともに、ヒートシール、超音波シール等の適宜なシール手段によりシール部1Aを形成する。さらに、切取部1Bの一端にノッチ1Cを形成する。

このように製造された包装袋では、ノッチ1Cから包装袋を引き裂くと、切取部1Bの両側に設けられたガイド部材3に沿って基材フィルム1が切り欠かれ、包装袋は直線状に開口される。

このような構成の包装袋によれば、基材フィルム1にヒートシールし、さらに、ノッチ1Cを形成して包装袋を製造した。

この包装袋のノッチ1Cから手で引き裂いたところ、ガイド部材3に沿って基材フィルム1が直線状に切り欠かれ、しかも、カット面も非常に良好であった。

第2実施例

次に、本発明の第2実施例について、第5図及び第6図に基づいて説明する。

第2実施例の包装袋は、チャック付き包装袋であり、ガイド部材を咬合具に設けた点が前記第1実施例と異なり、他の構成については、第1実施例と同様である。

第5図及び第6図において、雄型咬合具5及び雌型咬合具6は、咬合部5A、6Aを支持する基部5B、6Bがそれぞれ前記基材フィルム1の内側に接着固定され、この基部5B、6Bの内部には、図中、咬合部5A、6Aより上方に前記ガイド部材3が設けられている。

ここで、前記咬合具5、6の材質としては、ボ

ム1の線状の切取部1Bにテープ2を設け、このテープ2内に切取部1Bに沿ってこの切取部1Bの両側に複数の織維状のガイド部材3を設けたので、包装袋が直線状に容易に開口される。従って、包装袋の開封に際し、鍼等の刃物を用いることなく包装袋のカット面をきれいにできる。さらに、基材フィルム1の材質としては一軸延伸フィルム等、特定のものに限定されないので、使用する基材フィルム1の多様化が図れる。さらに、包装袋を製造した後は開封手段を付与するための二次加工を施す必要がないので、包装袋の製造が容易なものとなる。

この効果を確認するため、テープ2の材質として低密度ポリエチレンを用い、ガイド部材3の材質としてアラミド織維を用いて第3図及び第4図に示される押出装置によりガイド部材3が内部に設けられたテープ2を押出成形した。この際、ガイド部材3を2本とし、170℃の押出温度で樹脂を押し出した後、水冷してテープ2を得た。このテープ2を、ONY/LDPE (15μ/40μ) の基材フ

リエチレン、ポリプロピレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体、アイオノマー等を例示できる。

第2実施例の包装袋においても、前記第1実施例と同様に、ガイド部材3が内部に設けられた咬合具5、6を押出装置により製造する。この咬合具5、6を基材フィルム1にヒートシール、超音波シール等の適宜な手段により溶着固定し、さらに、この基材フィルム1を重ね合わせて端縁をシールしてチャック付き包装袋を製造する。

このように製造されたチャック付き包装袋を前記第1実施例の場合と同様にノッチ1Cから引き裂けば、包装袋が容易に開口でき、しかも、そのカット面が直線状となる。

このような第2実施例によれば、第1実施例と同様な効果を奏する他、包装袋が直線状に開口されないことに起因して咬合具5、6の基部5B、6Bを指で支持する部分が少なくなるという不都合を回避でき、咬合具5、6を容易に開閉できる効果も奏すことができる。

なお、前記各実施例では、基材フィルム1の切

取部1Bの一端にノッチ1Cを形成したが、基材フィルム1自体が一方向に裂けやすい材質を用いていれば、このノッチ1Cを設けることを要しない。

また、前記各実施例では、ガイド部材3はテープ2または咬合具5、6に必ずしも設けることを要せず、基材フィルム1自体にガイド部材3を設けてもよい。さらに、第2実施例においては、第1実施例で用いられたガイド部材3が内部に設けられたテープ2を咬合具5、6に設けるものであってもよい。

さらに、2枚の基材フィルム1を重ね合わせ、これらの上下左右の端側をシールして包装袋を形成したが、1枚の基材フィルムを重ね合わせ、3方の側縁をシールして包装袋を形成するものであってもよい。

〔発明の効果〕

前述のような本発明によれば、包装袋を容易に直線的に開封でき、使用される基材フィルムの材質が制限されず、しかも、製造が容易であるとい

う効果がある。

また、チャック付き包装袋とすれば、咬合具を指で支持する部分がなくなることがないので、咬合具の開閉が容易になるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

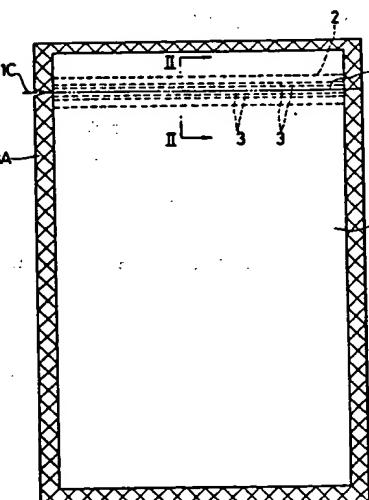
第1図は本発明の第1実施例に係る包装袋の正面図、第2図は第1図中Ⅰ-Ⅰ線に沿う矢視拡大断面図、第3図及び第4図は押出装置を示すもので、第3図はその斜視図、第4図は断面図、第5図は本発明の第2実施例に係るチャック付き包装袋の正面図、第6図は第5図中VI-VI線に沿う矢視拡大断面図である。

1…基材フィルム、1B…切取部、2…テープ、3…ガイド部材、5、6…咬合具、5A、6A…咬合部。

出願人 出光石油化学株式会社

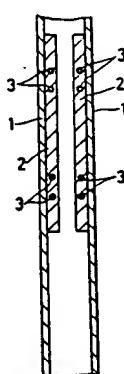
代理人 弁理士 木下 實三(ほか2名)

第1図

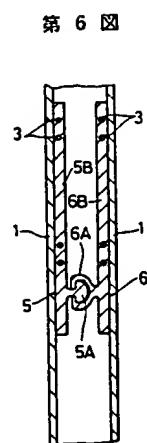
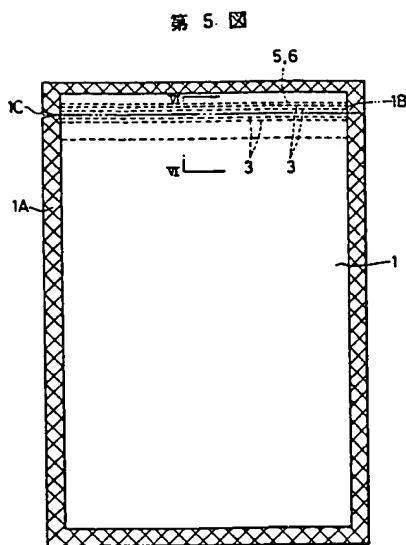
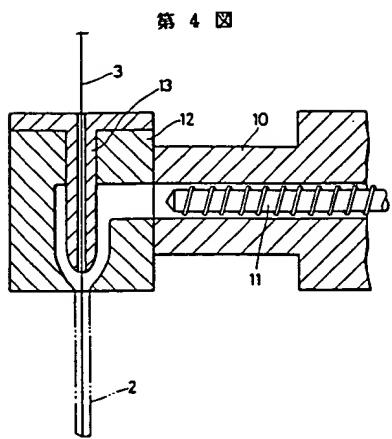
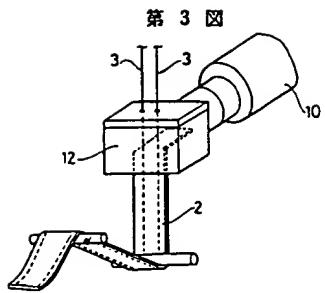


1…基材フィルム
1B…切取部
2…テープ
3…ガイド部材

第2図



1…基材フィルム
1B…切取部
2…テープ
3…ガイド部材



5,6…咬合具

5A,6A…咬合部